

法士会報

発行所：法政大学デザイン工学部
都市環境デザイン工学科 同窓会
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-33
TEL・FAX (03) 5228 1406
発行人 山口 明
編集人 会報編集委員会

会長メッセージ

都市環境デザイン工学科同窓会(法士会)会長 山口 明

会長を仰せつかっております1975年卒業の山口です。法士会報第17号の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

この夏は記録的な猛暑が連続するなど、近年の異常気象は増々顕著化しております。近々では「平成27年9月関東・東北豪雨」と命名されるほどの豪雨が降り、宮城、栃木、茨城県で計8人が死亡、46人が重軽傷を負い、2万軒近い住宅に被害が出ております。法士会会員並びに法政大学同窓生で被害にあわれた方がいらっしゃいましたら紙面をお借りして、心よりお見舞い申し上げます。

この水害について先般、国土交通省関東地方整備局よりプレス発表がされました。資料によりますと、昭和32年から順次運用を開始した鬼怒川上流ダム群(湯西川、五十里、川俣、川治の4ダム)が約1億トンの洪水を貯めて大きなストック効果を発揮し、もし4つのダムがなければ、決壊地点付近で更に30cm水位が高くなり、浸水面積は約1.3倍の約50km²になると試算されました。この様に道路、ダム、河川改修など社会資本の整備は一朝一夕では出来ません。我々土木に携わる者の主な仕事は、官民を問わず継続的に公共・公益に資する社会資本を整備することであり、以って安全、快適、利便性の高い豊かな国民生活や円滑な産業活動を築いていくことであると確信しております。継続的な公共投資による社会資本整備の進展を期待します。

さて、法士会の活動ですが、「大学側との連携強化」について年々着実に進んできていると思います。具体的には今年7月に行われた「社会工学セミナー」へは卒業生だけではなく、教職員、現役学生など併せて約70名の出席をみるなど盛況のうちに開催されました。終了後の講師の方々を交えた懇談会も大変有意義なものでした。また、「卒業生と学生との意見交換会」も授業の一環として行われるなど大学側のご理解、ご協力で年々活発化しております。別稿に今年の概要がありますので、特に若手卒業生の多数のご参加をお願いいたします。

更には、今後とも法士会の活動を一層充実してゆかなければなりません。そのためにも、「会員数の増強と会員間の連携」は、会長はじめ法士会役員が積極的に取り組まなければならない重要な課題であると認識しております。しかし社会資本整備と同様、一朝一夕で出来るものではありません。皆さんが連絡先をお知らせいただくことなどから始められる地道な継続が形になって行くと思っておりますので、是非同窓会活動に対する卒業生一人ひとりのご理解、ご協力をお願いいたします。



都市環境デザイン工学科近況

都市環境デザイン工学科 学科主任 教授 酒井 久和

法士会会員の皆様、平素より本学科の教育活動にご協力を賜りありがとうございます。特に学生の就職活動においては、キャリアデザインセミナーや企業訪問での面談が、進路選択における極めて重要なアドバイスとなっているようです。本年も12月12日(土)にキャリアデザインセミナーが開催されます。学生へのご指導、宜しく願いいたします。

【**学科の現状**】2015年度の学生数(定員80名)ですが、2~4年生が90名以上に対して、1年生が81名となっています。また、女子学生の占める割合は3~4年生で16%~19%、1~2年生は23~25%と増加傾向にあり、本学科の入試の偏差値(代々木ゼミ)も若干ですが上昇傾向にあります。まちづくりに携わりたいと希望する学生が散見されることから、まちづくりに重点を置いた広報の効果も大きいように感じられます。ただ、構造系を主体とした分野での就職が多数を占めることから、構造分野などの要素も取り入れた広報も検討する必要があると考えています。

【**グローバル化**】ご周知の通り、法政大学がスーパーグローバル大学のグローバル化牽引型に選定されました。この牽引型は、“これまでの取組実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学”と規定されています。旧帝国大学等のトップ型13校に続く牽引型24校の中に選定されたことは大変喜ばしいニュースでもあり、社会のグローバル化に即した人材を供給することは主要大学としての使命でもあると考えます。学科としては、海外の留学生の受け入れや学生が海外留学しやすい環境整備、英語による授業を行うなど、徐々にそのための変革も求められつつあります。一方、“日本人に対し

ては日本語で講義をしても分からないものを英語で講義して分かるはずがない”と先行している旧帝国大学の教員による否定的な意見もあり、今後、学科としてどのようなグローバル化が適切であるのか熟考していかなければなりません。

【**大学院進学**】現在、本学科の方針の一つに“大学院進学者を増やす”ということがあります。近年の全理工学系学生が約4割、国公立の主要大学に限定すると8割以上の学生が大学院進学しているなか、当学科ではここ3年2~3割(2014年度は23%)しか進学していません。学科の大学院進学率が他の主要大学と比べて低くなっていることの一因として、売り手市場のみならず、法士会会員の皆様のサポートにより4年生が希望する組織に入社できていることが考えられます。改めて御礼申し上げます。ただ、学科としてはあと2年待つて頂き、一回り成長した学生を採用して頂ければと考えています。一方、我々教員側も大学院進学を学生に薦める以上、2年で見違えるような学生を輩出していくことが責務となります。成長不足な学生がおりましたら、ご遠慮なく指摘頂ければ幸いです。

最後に、本学科では7月にご協力頂いた卒業生アンケートも参考に教育改善を進めていく所存です。引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。



編集委員：このたびは学部長へのご就任おめでとうございます。過去の話になりますが、先生が教員として法政大学に着任した1990年は自分が法政大学に入学した年でもあり、1年次の土木応用力学の授業では大変お世話になりました。四半世紀前の土木工学科（現、都市デザイン工学科）には同学年に女性1名でしたが、その後、徐々に増えているようです。先生方のご尽力の成果ともいえると思いますが、現在の男女比はどのようなのですか。

森学部長：25年ほど前は、女子学生が学年に一人いるかいないかという状況でした。その後、徐々に増え、特に学科名称を「土木工学科」から「都市環境デザイン工学科」に変更した後、さらに増え、ここ数年の女子学生比率は20%程度となっています。

編集委員：教育・指導、研究活動に加え多忙な日々と思いますが、学部長としてどんなことに取り組んでいるか教えてください。

森学部長：大学と学部の繋ぎ役、学部のまとめ役というのが学部長の役割かと考えています。学部として行わなければならないこと、例えば大学本部からの要請事項への対応などが通常の業務です。当大学はSGU（Super Global University）に採択されこともあり、大学のグローバル化に向けた対応が重要となっています。学部としても、そのような活動を行っています。私の任期中の学部の目標として、(1) 学生の履修計画・達成度評価と教職員による学生指導に活かせるようなシステム作り、(2) 手狭な市ヶ谷田町校舎スペースの有効利用と教育・研究に必要なスペースの確保などを挙げており、そ

のための活動を始めたところです。

編集委員：デザイン工学部は都市環境デザイン工学科のほかに建築学科、システムデザイン学科で構成されていますが、授業や演習等で他学科と交流する機会はあるのでしょうか。

森学部長：当学部には学部共通科目という講義・演習が設けられて

おり、すべて学科の学生が受講できるものです。

編集委員：法土会に期待することはありますか。

森学部長：これは学科教員としての意見です。具体的なアイデアはありませんが、若い人たちが参加しやすい会となってくれればと思います。在学生と卒業生とのつながりは研究室単位で行われることが多いかと思います。しかし、研究室を担当する教員も入れ替わるため、在学生と卒業生、また卒業生同士のかかわりは法土会にお願いせざるを得ないかと考えています。法土会は、「都市環境デザイン工学科の在校生との交流や卒業生への支援を通じ、同じ技術分野を学んだ同窓生として喜びを共有できる同窓会の運営を目指す。」ことを目的とした団体かと思っています。この魅力を学生が理解できるよう、さらに尽力いただければと思います。

編集委員：本日は学部の動きに加えて、同窓会に対するご示唆をいただきましてありがとうございました。森先生のますますのご活躍を期待しております。



森 猛デザイン工学部長

研究室紹介

都市情報・伝達研究室（森田研究室）

大学院デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻 修士課程2年 向井 亮

本研究室の大きな特徴としてまず挙げられるのは、学生が自ら興味のあるテーマを設定し研究していくことです。

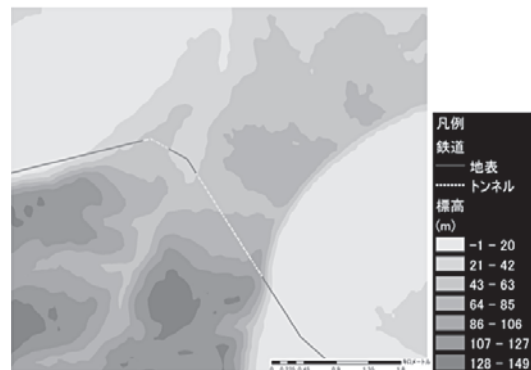
これは森田喬教授の“自ら課題を「発見」し、「展開」していく能力が、今後社会に出てから必要となる”という考えに基づいています。この「発見と展開」を研究室の標語として、各々の主題となる研究に取り組んでいます。

その研究上の基本スタイルは、空間情報システム（地図）を用いて接近を試みることです。都市計画とは地図を描くことと言ってもよいぐらいに地図と切っても切れない関係がありますが、その地図がデジタル化・システム化されることによって操作性が飛躍的に向上しています。立体表現や時間経過も考慮した表現も可能となり、環境システムのみならず、景観や歴史・文化も扱えるようになってきています。

研究室で特に重要視していることは2つあります。一つは学生各々の主題について客観的なデータに基づき明らかにすることです。もう一つはその明らかになった事実を分かりやすく他者に伝達し表現することです。特に後者については、空間情報・伝達研究室という名称にもある通り意識されるべ

き点です。研究者が伝えたい主題が、見る人にとって瞬時に分かる地図表現を行うことは、主題の説得力をより強くすることができるからです。

最後に私の研究テーマを紹介すると、地形と交通網の関係性について、標高データと衛星写真（Google Earth）の活用により、トンネルや橋梁などの技術の発展の経過を分析しています（図参照）。



標高と照らし合わせた鉄道トンネルの位置の例

寄稿文

中島国明先生を偲んで

株式会社地盤調査事務所日野技術研究所
出穂 孝之 (1966年卒)

法政大学旧土木工学科で長い間、ご指導されていた中島国明先生が8月9日、急性肺炎により突然ご逝去(79歳)されました。ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

私たちが学生の昭和40年頃は、測量実習で麻布校舎近辺の公園に出向き、先生とともに歩き回りました。測量作業をサボっていると、少し怖い顔で注意されたことを昨日のように思い出します。あの頃は先生もまだ20代の青年でしたので、私たちには頼りがいのある兄貴分のような存在でした。

卒業後、先生と酒席をともにする機会が時々ありました。日本酒をこよなく愛され、美味しそうに飲みながら厳しくて鋭い口調で世相を頑固に斬っておられましたね!

忘れられないことは、私たち卒業生の一人ひとりを人間コンピュータの頭脳で、いつも優しく見守って下さったことです。「〇〇建設の〇〇君は、今トンネルの現場にいるよ」と状況を教えていただき、いつも驚いておりました。

先生の卒業生との深い交わりは、学生が就職活動で卒業生の会社訪問をする時にも大きな役割を果たしたものと思われまます。先生のご尽力で旧土木工学科の人的ネットワークが広がり、「古き良き時代の土木」を象徴するようで感謝の言葉もありません。

先生は腕力が自慢のスポーツマンでした。野球がお好きで熱心に少年野球を指導しておられました。また、ゴルフではドライバーをオーバースウィング気味に振って、かっ飛ばしておられた姿が目に見えます。お元気になられたらゴルフ

を一緒にプレイしようと願った6年間でしたが、残念ながら逝ってしまわれました。いつの日か、天国のゴルフ場でドライバーはどちらが飛ばか競い合いましょう。

「中島先生に日本酒で献杯!」



談笑する中島先生(左)と宮下先生 2009年撮影
(写真提供:宮下先生)

法土会編集委員より

中島国明先生は1956年から1999年までの40年余りにわたり在職された先生です。測量教室を経て河川教室を担当するほか学科の就職担当として学生の就職指導、相談に対応されました。学校推薦型の就職が主体であった時期から、90年代バブル崩壊後に定着してきた自由応募型の就職に至るまで精力的に学生を鼓舞しご指導いただきました。その一方では、卒業生の窓口として卒業生との関係づくりに尽力されました。同窓会に対する理解も深く、現在の法土会があるのは中島先生のご尽力の賜物であると感謝いたします。ここに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

寄稿文

社会人生活20年を振り返って

さいたま市建設局下水道部下水道計画課
長谷川 明大 (1996年卒)

私は、大学を1996年に卒業し、総合建設会社で4年間勤務しておりましたが、転勤が多く休日も少ない、また周囲の友人が公務員へ転職する人が多かったことなどから、公務員への転職を考え、現在、さいたま市役所で16年間勤務しております。社会人生活20年を振り返ると、あっという間の20年であったかのように思います。

冒頭申し上げましたが、卒業後は株式会社大本組に入社し、シールド工事(国交省)、東京港臨海道路工事(東京都)、線路のり面強化工事(JR)において、現場勤務をしました。今振り返ると、この4年間は、土木業務を行う上で、非常に良い経験をさせていただきました。当時の生活は、毎朝6時起床、仕事帰りは夜12時、休日は日曜日のみで、勤務中も現場を走り回る毎日。そんな中、現場の所長や先輩、また下請け業者の職長からも怒鳴られる日々を送っていたことを思い出しますが、この頃、仕事を進める上での段取りの重要性、また人を使うことの難しさなどを学べたのかなと思います。

入庁以来、道路や下水道における計画等の業務をしておりますが、運よく海外業務に携わる機会がありました。本業務は、平成24年度、日本の上下水道事業者等と民間企業が連携して、アジア諸国の水ビジネス案件の形成を図るため、官民連携型による実施可能性の調査を行ったものです。まず、ラオス政府及び地方自治体への表敬訪問、ヒアリングをしたと

ころ、水道の普及及び下水道整備の必要性は認識しており、世界遺産にふさわしい水質改善の向上が喫緊の課題であるとの事でした。実際調査を行うと、排水施設は、いずれも生活排水が未処理のまま放流され、ごみや食材の残骸が残されています。簡易的な水質試験COD試験をしたところ、基準値を超える水質の排水が日常的に放流されるなど、水質改善が急務であり、是非早期にパイロット事業、下水道事業の実施の検討が必要と感じ、短期間の調査であったが、日本のインフラ整備の充実性を感じた良い機会でありました。

最後に、総合建設会社や地方行政の業務を行ってまいりましたが、建設に係る仕事は、常に新たな課題に向き合い、その解決には過去の実績や新たな技術の検討などが求められています。私は、現在40歳を超え、社会人人生の折り返し地点にいますが、今後は更に、最新の情報や動向、技術力の取得など、幅広い技術者としての知見をもって、市政に反映してまいりたいと考えております。



学科専任教員の変遷に関して

法士会報編集委員 三村 卓 (1994年卒)

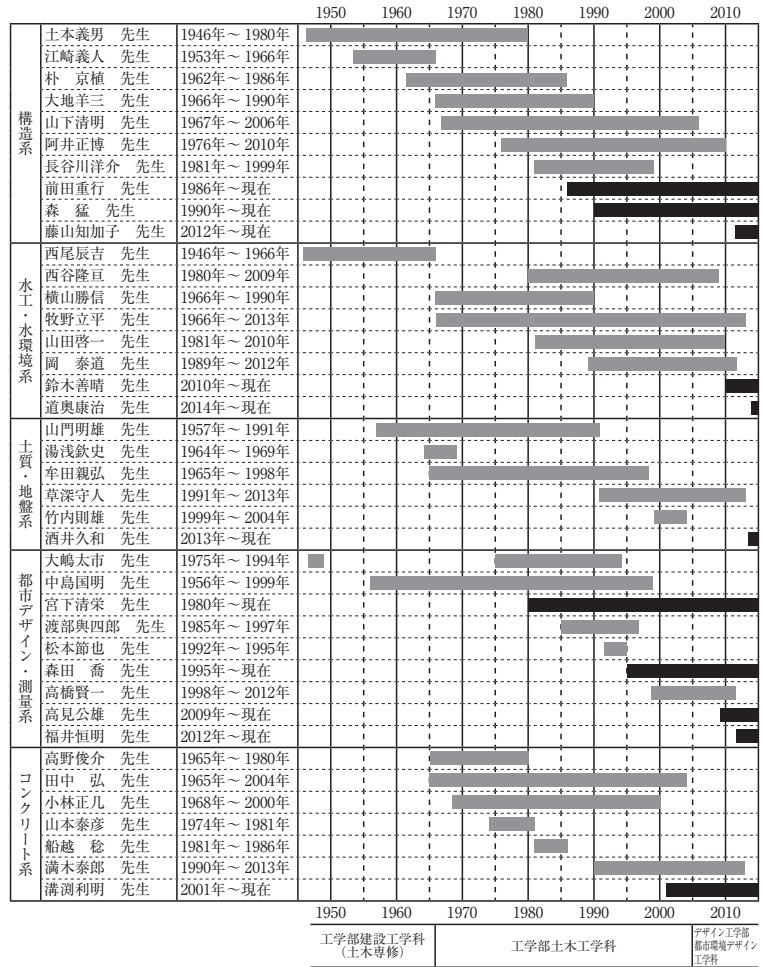
現在の都市環境デザイン工学科の専任教員は計11名です。そのうち、前身の土木工学科から引き続き教鞭にあたっている教員は5名、都市環境デザイン工学科が発足した2005年以降に着任した教員が6名です(2015年9月現在)。法士会報では、新着教員、研究室についての紹介を継続的におこなってきましたが、例えば卒業後10年を経過した学科卒業生にとっては、直接指導を受けた先生の多くが在籍していないことになっています。

こうしたことを踏まえ、右図に示すように専任教員の系譜をおおまかな研究種別(一部強引ではあるが)にまとめたの整理を試みました。今後、下記のような展開を望みます。

- 学生時代の振り返り
- 研究室の系譜を知る
- 先生方との情報交換(業務相談等)
- 研究室学生との交流(就職支援等)

作業の過程において、柴田論文*を知ることとなり作図の上での参考にさせていただきました。この場を借りて感謝します。なお、学士論文には教員の変遷のみならず、教育目標・方針の時代的变化や当時のカリキュラムについての調査・研究が広くされています。

*柴田英明：法政大学建設科土木専修及び土木工学科における教育体制の変遷、2014(学士論文)



※現任教員を黒線で表記した。(2015年現在)
都市環境デザイン工学科・旧土木工学科の専任教員の変遷

第22回社会工学セミナーの開催報告

第22回社会工学セミナーが下記のとおり開催され、卒業生と先生、学生の約70名の参加がありました。

- 日時：平成27年7月13日(月)18:30～ 市ヶ谷田町校舎
 - 講演：①デザイン工学部設立の経緯とこれからの大学を取り巻く社会環境の変化：法政大学名誉教授 武田 洋
 - ②渋谷駅周辺再開発計画の概要：東京急行電鉄株式会社 秋元 隆治
- 武田先生からはご経歴を交えての大学の変遷について、秋元さんからは現在進行中プロジェクトについてとそれぞれ大

変興味深いお話で、卒業生だけでなく教室側の関心も高いものでした。講演後の懇親会には半数近い方々が参加されて大いに盛り上がり、学生時代の友との再会の場、社会での情報交換の場としても有意義なひと時となりました。

本セミナーは22回を重ね参加者も増えて定着してきており、来年も引き続き開催する予定であり、講演内容も皆様方にとって興味深いようにしたいと考えていますので、より多くの皆様のご参加をお待ちしています。

法士会副会長 中村 徹 (1978年卒)

『卒業生と学生との意見交換会(第4回)』の開催予告

就職活動を進めていく学科3年生と修士1年生を対象にしたゼミナール「キャリアデザイン研究(1)」の一環として、「卒業生と学生との意見交換会」を今年も下記の日程で開催する運びとなりました。卒業生の皆様におかれましては、業種別意見交換会(第二部)において学生からの疑問や不安点に対するアドバイスを願います。どうぞ後輩のためにご出席をお願いします。

- 日時：平成27年12月12日(土)13:30～17:10
- 場所：法政大学市ヶ谷田町校舎T511教室(5階)ほか
- 主催：都市環境デザイン工学科、都市環境デザイン工学科同窓会
- プログラム：第一部 キャリアセンターからの案内とパネルディスカッション
第二部 業種別意見交換会 T204・T205・T207・T208教室
- 問合せ先：山田 誉(1991年卒 大田区役所) yamada-h1110@city.ota.tokyo.jp

編集後記

全国大会の出席のために岡山大学に行ってきました。久しぶりの面々と会うなど、大変有意義でした。今年度は地区同窓会(例年、土木学会全国大会の開催地で開催)を実施することはできませんでしたが、来年度は東北・仙台とのことです。復興事業などを抱えて多忙とは思いますが、多くの同窓生との出会いを期待しております。

法士会報編集委員 三村 卓(1994年卒)